YAMAHA

STEREO PRE-AMPLIFIER
取扱説明書

1 特長

■ごあいさつ

このたびは、ヤマハステレオプリアンプ C-2a をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

C-2a の開発にあたりまして、ヤマハの持つエレクトロニクス技術を結集して、高 SN 比、低歪率、およびトーンコントロールツマミセンターでディフィート状態が得られるトーンコントロール回路や、レコーディング機能を充実する独立した REC OUT SELECTOR の採用、またあらゆるカートリッジに対応できるように、最適負荷インピーダンスを設定できる PHONO SELECTOR 兼用のカートリッジロードインピーダンス切り換えスイッチなど、多くの操作を可能にし、高性能で使いやすく充実したプリアンプとして完成されました。

C-2a のすぐれた性能を充分発揮させ、末長くご愛用いただくため、この取扱説明書をご使用の前に是非お読みいただきますようにお願いいたします。

■目次

■特長

- イコライザーアンプは、世界最高のHigh gmスーパーローノイズDUAL FETを開発採用した DC アンプで、許容入力350mV (1kHz,THD0.01%) と充分なダイナミックマージン、そして92dBの高 SN 比を得ています。
- MC用ヘッドアンプには、スーパーローノイズトランジスターを採用、新方式カスコードコンプリメンタリプッシュプル方式により高帯域、低歪率、高 SN 比 (78dB以上) を実現、MCカートリッジの持ち味を充分に生かします。
- あらゆるカートリッジに対応できるように、カートリッジロードインピーダンス切り換えスイッチを装備。カートリッジの最適負荷抵抗で再生することが可能です。特に 100Ω ポジションの設置により、低インピーダンス、高出力のMC型カートリッジなどとのマッチング特性を改善しています。
- トーンコントロールツマミセンターでディフィート機構を持つ高精度低歪率NF型トーンコントロール回路の採用。
- レベルクロスオーバー方式のボリュームコントロール機構により、小音量時の歪率、SN 比を大幅に改善、均一な周波数特性を得ています。
- ヤマハ独自のREC OUT切り換えスイッチにより、再生中のプログラムとは無関係に別のプログラムの録音ができるという、ダブルアクションが可能。
- REC OUT, PRE OUTにはミューティングリレーを使用し、電源 ON, OFF 時のノイズを防止しています。
- その他、ピンジャック端子には信頼性の高い金メッキ切削型を全面採用、回路には、ヤマハカスタムオーディオ用カップリングコンデンサーおよび金属被膜抵抗を全面採用。また、コネクターにも金メッキを施すなど総合的な聴感特性の向上を図っています。

ご使用のまえに/次のことにご注意ください 2

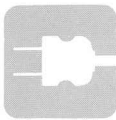
設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当る場所や、暖房器具のそばなど、極端に暑い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

※トランスやモーターの近くの設置は誘動ハムをひろう原因となりますので、離して設置してください。

水に濡れたら

万一雨がかかったり、花びんなどの水をセットにこぼした時はすぐに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

電源コードの取り扱い

本機の電源は100ボルトです!

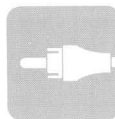
工業用電力など100ボルト以外のコンセントには絶対に差し込まないようにしてください。

また、電源コードをコンセントから抜くときは必ずプラグ部を持って引き抜いてください。

予備電源コンセント

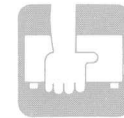
背面パネルのACコンセントの容量は、SWITCHEDが400W(TOTAL)、UNSWITCHEDが200Wとなっております。接続する機器の消費電力を確かめて容量以上の消費電力を持った機器は絶対に接続しないでください。

無理な力を加えない

スイッチやつまみ、キャビネットなどに無理な力を加えることは避けてください。故障の原因となります。

入出力コードを抜き差しする場合

クリックノイズによるスピーカーの破損を防止するため、接続コードの抜き差しは、本機, パワーアンプ等の電源スイッチを切ってから行ってください。

セットのお手入れは

セットをベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。お手入れは、必ず柔い布等で乾拭きするようにしてください。

セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず12ページの“故障と思われるときは”をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。

保証書の手続きを

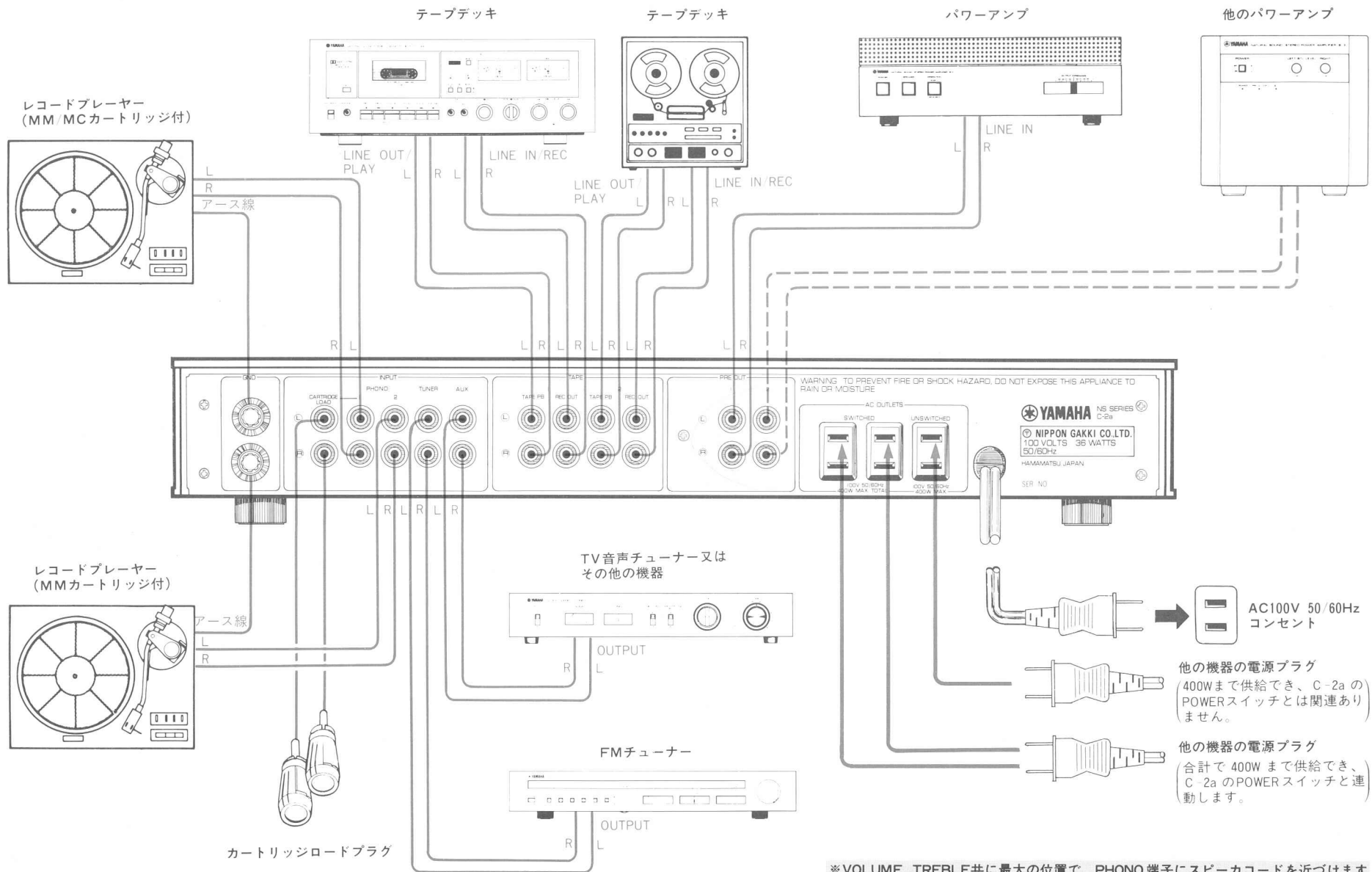
お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことになりますので、充分ご注意ください。

保管してください

この取扱説明書をお読みになりました後も、保証書とともに大切に保管してください。

■ステレオを楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。
静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓をしめたりヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

3 接続図

※VOLUME, TREBLE共に最大の位置で、PHONO端子にスピーカコードを近づけますと、特性的に最良の状態が得られませんのでご注意ください。
※接続の際は各機器の右チャンネル(R), 左チャンネル(L)を確認して接続してください。

接続上のご注意

■レコードプレーヤーの接続

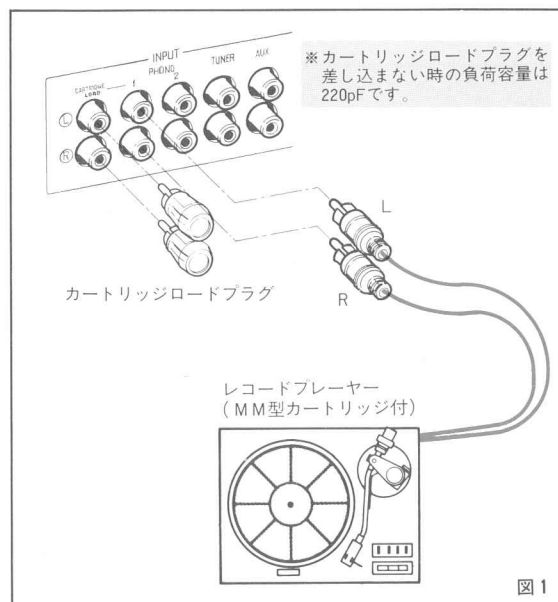
1．PHONO-1端子への接続
PHONO-1端子は、MM型（IM型，MI型等）カートリッジの付いたプレーヤーまたは、MC型カートリッジの付いたプレーヤーどちらでも接続が可能です。また、PHONO切り換えスイッチで負荷インピーダンスの切り換えができる端子です。
※MCカートリッジは必ず100Ωポジション又は、MC AMPポジションで使用してください。

2．PHONO-2端子は、MM型(IM型，MI型等)カートリッジの付いたプレーヤーを接続する端子です。PHONO-2端子にはMC用ヘッドアンプが内蔵されていませんので、MC型カートリッジの付いたプレーヤーは接続できません。
※PHONO-1，2端子へレコードプレーヤーを接続する際は、ピンコードのL,Rを必ず確認して接続してください。

3．CARTRIDGE LOAD端子
このCARTRIDGE LOAD端子へ付属のカートリッジロードプラグを差し込み、PHONO-1へ接続されたMM型等カートリッジの付いたプレーヤーの最適負荷容量を選択します。(図1)
※8ページの〝カートリッジロードについて〟の項を参照してください。

■TUNER, AUX端子への接続

TUNER端子やAUX端子への接続は、ピンコードのL, Rを必ず確認して接続してください。

図1

■テープデッキの接続

1．TAPE-1のREC OUT端子と、テープデッキの録音入力端子（LINE IN）のL,Rを確認してピンコードで接続し、次にTAPE-1のTAPE PB端子とテープデッキの再生出力端子(LINE OUT)を同様にピンコードで接続します。

2．TAPE-2のREC OUT端子と、TAPE PB端子も同様にして、もう一台のテープデッキを接続することができます。

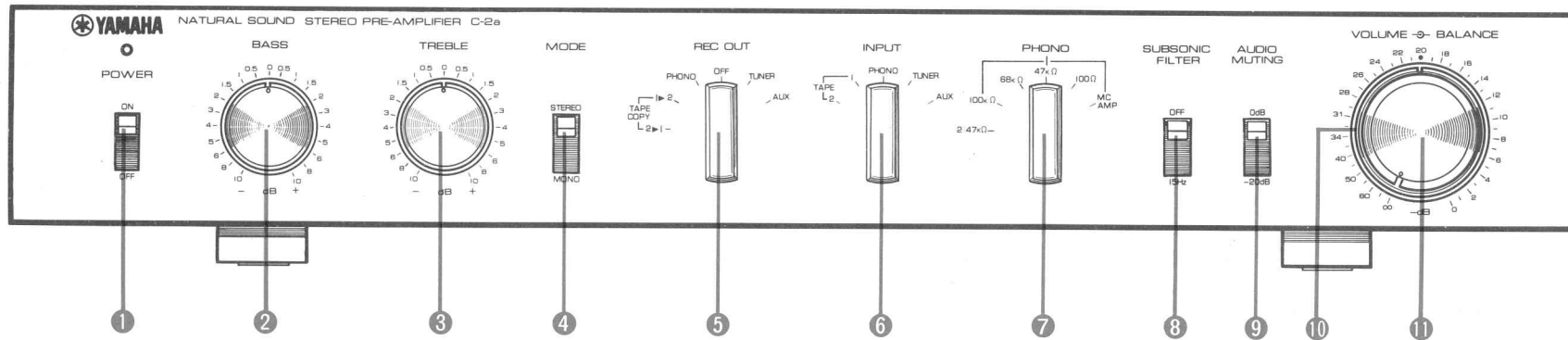
■パワーアンプの接続

PRE OUT-1端子と、パワーアンプのINPUT端子をピンコードでL,Rを確認して接続します。
PRE OUT-2端子も同様にしてもう一台のパワーアンプを接続することができます。
※PRE OUT端子へ1台のパワーアンプのみ接続する場合は、一方のPRE OUT端子にショートピンなどは絶対に差し込まないでください。又電源が入っていないパワーアンプの並列接続は行なわないでください。

■AC OUTLETS(予備電源コンセント)への接続

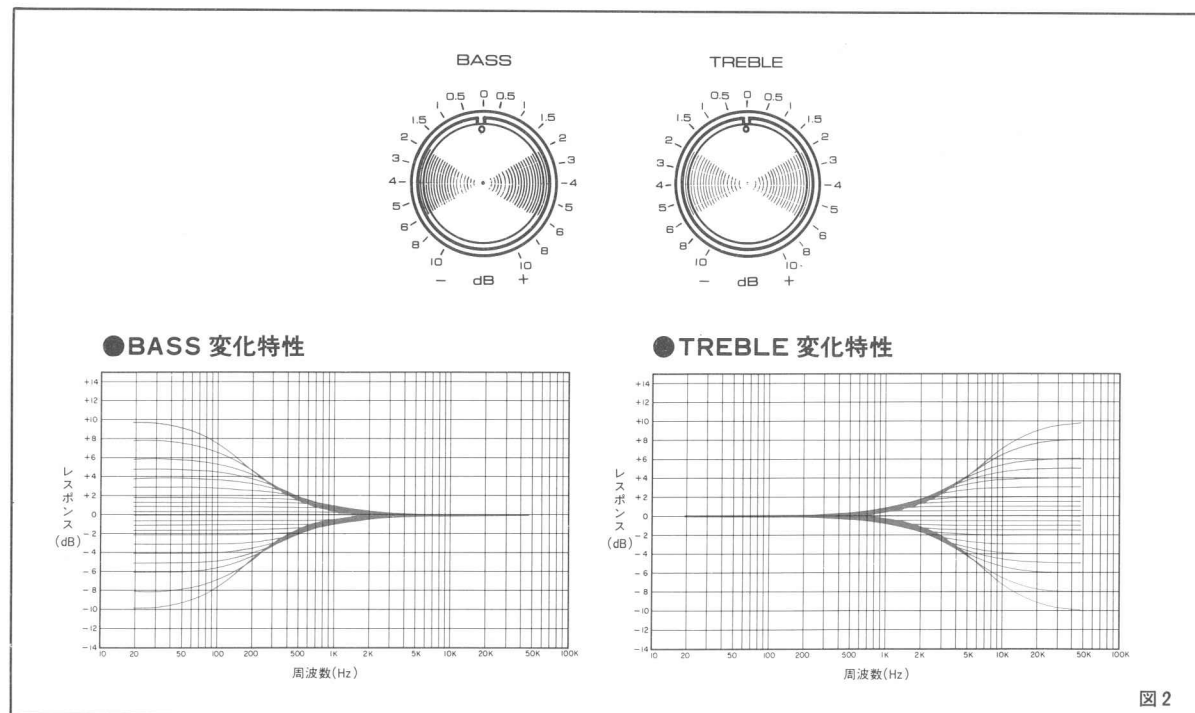
1．消費電力が400W以下の機器は、電源コードのプラグをC-2aのAC OUTLETSコンセントのSWITCHEDに差し込んで、POWERスイッチをONにしておきますと、C-2aのPOWERスイッチと連動させて、電源をON, OFFさせることができます。
※SWITCHEDのコンセントは、2つの合計で400Wまでですので接続する機器の消費電力を確認して必ず400W以下で使用してください。

2．UNSWITCHEDのコンセントは消費電力400W以下の機器がC-2aの POWERスイッチのON, OFFに関係なく接続することができます。
※出力の大きなパワーアンプではパワースイッチを入れたときなど瞬時的に大電流が流れますので原則として電源コードをC-2aのAC OUTLETSには差し込まないでください。

5 名称と機能

❶POWER（電源スイッチ）
このスイッチを"ON"にすると電源が入り、スイッチ上側のインジケーターが点灯します。"OFF"にすると電源が切れ、インジケーターが消えます。
※電源スイッチをONにしても数秒間は、電源を入れたときのポップノイズを取り除くためのミューティングリレーが働きますので音は出ません。

❷BASS（低音調整ツマミ）
低音域の特性を調整するツマミです。
"0"の位置で完全にフラットな状態で、右に回すほど低音が強調され、左に回すほど低音が減衰します。

❸TREBLE（高音調整ツマミ）
高音域の特性を調整するツマミです。
"0"の位置で完全にフラットな状態で、右に回すほど高音が強調され、左に回すほど高音が減衰します。

図2

❹MODE（モード切り換えスイッチ）

このスイッチで入力端子に接続された各種のプログラムソースのモードを選択することができます。〝STEREO〞側にすると通常のステレオ再生ができます。
〝MONO〞側にするとモノラル再生となります。

❺REC OUT（録音出力切り換えスイッチ）

接続されているテープデッキに、録音用の信号を送り出すスイッチです。
❻のINPUTスイッチ（入力切り換えスイッチ）に関係なく、接続されているプログラムソースを選択して録音することができます。レコードを聞きながらREC OUTスイッチを〝TUNER〞にしてFM放送をテープデッキに録音するというダブルアクションや、テープのダビングなどが可能です。(図３)

● ダブルアクションの主な操作例

INPUT スイッチ	REC OUT スイッチ	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聞きながらＦＭまたはＡＭ放送を録音できます。
TUNER	TUNER	ＦＭまたはＡＭ放送をスピーカーで聞きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聞きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	ＦＭまたはＡＭ放送をスピーカーで聞きながらレコードを録音できます。

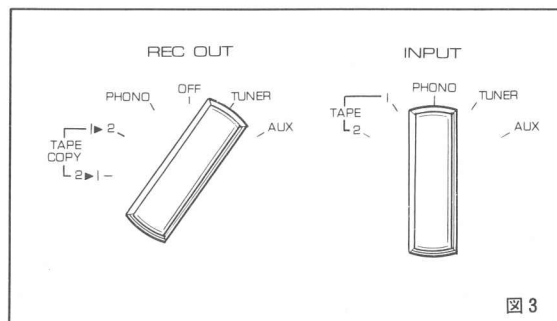
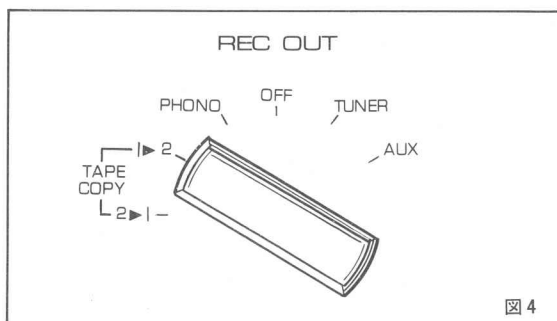



図３

●テープのダビング（複写）について

TAPE-１端子に接続されているテープデッキ１からTAPE-２端子に接続されているテープデッキ２へのダビングをする場合。
REC OUTスイッチを〝TAPE COPY １▶２〞のポジションにセットし、テープデッキ１を再生，テープデッキ２を録音操作します。(図４)
テープデッキ２からテープデッキ１へのダビングも同様にしてREC OUTスイッチを〝２▶１〞のポジションにセットします。

図４

❻INPUT（入力切り換えスイッチ）

入力端子に接続されているプログラムソースを選択するスイッチです。聞きたいプログラムソースに合わせてスイッチを切り換えてください。

❼PHONO（フォノ入力切り換えスイッチ）

接続されているレコードプレーヤーを選択および負荷インピーダンスを切り換えるスイッチです。

● PHONO-Ⅰ端子へ接続されているレコードプレーヤーが、

１．ＭＣ型カートリッジ付きの場合
PHONOスイッチを〝ＭＣ〞ポジションにしてください。また、低インピーダンス，高出力のＭＣ型カートリッジの場合は〝100Ω〞ポジションにします。

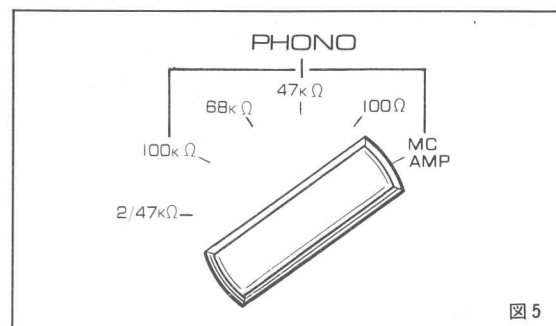



図５

２．ＭＭ型（IM型, MI型等）カートリッジ付きの場合
カートリッジメーカーの指定してある最適負荷低抗値にPHONOスイッチを合わせてください。また、負荷抵抗を変えることにより周波数特性を多少変化させることもできますので、お好みの音にセットすることも可能です。

※８ページの〝カートリッジロードについて〞を参照してください。

PHONO-1端子へMM型等の高出力カートリッジが接続されているときは、PHONOスイッチをMCポジションにすることはおやめください。

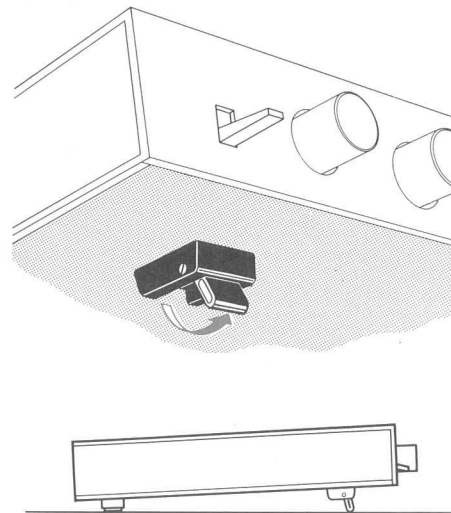
●PHONO-2端子へMM型（IM型,MI型等）カートリッジの付いたプレーヤーが接続されている場合PHONOスイッチを〝2/47kΩ〟のポジションにしてください。
PHONO-2では負荷インピーダンスは47kΩ一定で、負荷インピーダンスの切り換えはできません。
以上の方法でPHONO-1，PHONO-2を選択して再生することができます。

⑧SUBSONIC FILTER
（サブソニックフィルタースイッチ）
このスイッチを〝15Hz〟側にすると、通常は音楽再生に必要のない15Hz以下の可聴範囲外の超低域をカットして、レコード盤のそりなどによるスピーカーの超低域振動（コーン紙のフラつき）を防止します。通常はこのスイッチを〝15Hz〟側にしてご使用ください。

⑨AUDIO MUTING
（オーディオミューティングスイッチ）
このスイッチを〝−20dB〟側にしますと、アンプのゲイン（利得）を20dB（1/10）下げることができます。
※AUDIO MUTINGスイッチを−20dB側にしたまま、⑪のVOLUMEツマミで音量を上げた後、MUTINGスイッチを0dB側にしますと急激な音量の変化によりスピーカーに悪影響を与えますのでご注意ください。

⑩BALANCE（バランスコントロールツマミ）
このツマミを右に回すと左側の音が小さくなり、左に回すと右側の音が小さくなります。左右チャンネルのバランスをとる場合には、MODEスイッチを〝MONO〟にして、左右スピーカーからの音が中心に聞こえるようにこのツマミで調整します。その後、MODEスイッチを〝STEREO〟に戻しておきます。

⑪VOLUME（音量調整ツマミ）
全体の音量を調整するツマミです。右に回すほど（時計方向）音量が大きくなります。
※電源スイッチをON, OFFするときや、レコード盤の上に針を降す時などは、必ずこのツマミを左一杯（反時計方向：∞）に回し切っておくようにしてください。

フロントパネル側の脚2個を引き起こすことにより、本機を斜めにセットすることもできます。システムのレイアウトに応じて使い別けてください。

■カートリッジロードについて

一般にPHONO端子では、入力インピーダンスがカートリッジの指定の負荷抵抗値と合っていないと音質に悪影響を与えます。

C-2a ではMM型等マグネチック型カートリッジの負荷抵抗値に合わせて、PHONOスイッチにより47kΩ, 68kΩ, 100kΩ の3段階に切り換えられ、図6のようにポジションによって周波数特性が変わってきます。また負荷容量も、リアパネルのCARTRIDGE LOAD端子へカートリッジロードプラグを差し込むことにより図6のように周波数特性が変わってきます。

※使用カートリッジによって周波数特性が多少変化しますので、お好みの音になるようにスイッチポジションを選択してください。さらにカートリッジロードプラグによってカートリッジからPHONO入力端子までの出力コードの浮遊容量の変化などに対して最適な値を選択、補正することができます。付属品のカートリッジロードプラグには、330pF 2個と470pF 2個の2種類の負荷容量がありますが、ご自分で330(pF), 470(pF)以外の負荷容量がご希望のときには次式で取付容量を算出することができます。

取付容量(pF)＝希望負荷容量(pF)－220(pF)

実際のカートリッジロードの調整方法は、カートリッジメーカーがその製品に負荷抵抗とプレーヤー等のコード容量を指定してあれば、その値にセットすれば良いのですが、容量指定をしていないものが多いので、色々なレコードを再生しお好みの音を選択してみて下さい。

また、メーカーの指定値と変えることによって、異なった音色を作り出すことも可能です。

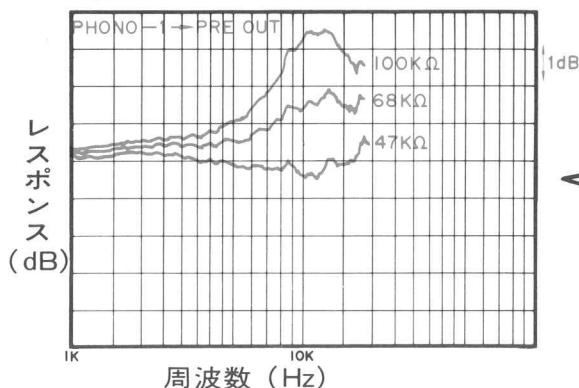
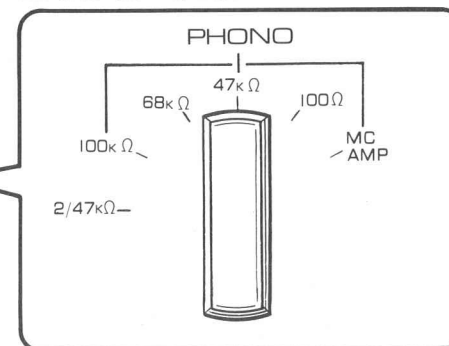
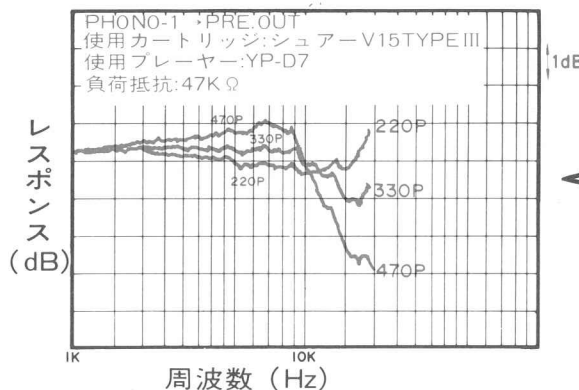
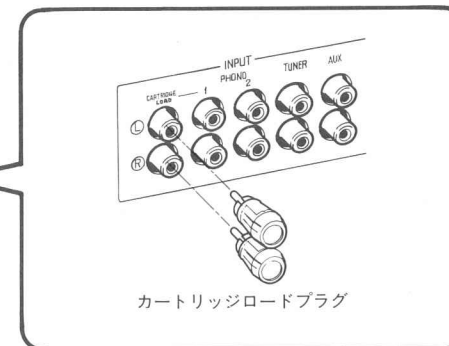



図6

9 参考仕様

■入力端子（入力感度／入力インピーダンス，1kHz）

PHONO-1（MM）	2.5mV/100Ω,47kΩ,68kΩ,100kΩ
PHONO-1（MC）	100μV/50Ω
PHONO-2（MM）	2.5mV/47kΩ
AUX	150mV/47kΩ
TUNER	150mV/47kΩ
TAPE-1, 2	150mV/47kΩ

■最大許容入力

PHONO-1, 2（MM, 1kHz, THD 0.01%）	350mV
PHONO-1（MC, 20kHz, THD 0.03%）	10mV
AUX（20Hz～20kHz, THD 0.01%）	1V
TUNER（20Hz～20kHz, THD 0.01%）	1V
TAPE-1, 2（20Hz～20kHz, THD 0.01%）	1V

■出力端子（レベル／出力インピーダンス，1kHz）

PRE OUT-1, 2	2.0V/250Ω
REC OUT-1, 2	150mV/100Ω

■最大出力（20Hz～20kHz）

PRE OUT-1, 2	15V（THD 0.01%）
REC OUT-1, 2	18V（THD 0.01%）

■歪率（20Hz～20kHz）

PHONO-1, 2（MM）→REC OUT	0.003%以下（10V出力時）
PHONO-1（MC）→REC OUT	0.01%以下（1V出力時）
AUX, TUNER, TAPE-1, 2→PRE OUT	0.003%以下（10V出力時）

■周波数特性

PHONO-1, 2（MM, RIAA偏差）	20Hz～20kHz、±0.2dB
PHONO-1（MC, RIAA偏差）	20Hz～20kHz、±0.3dB
AUX, TUNER, TAPE-1, 2	10Hz～100kHz±0.2dB

■トーンコントロール

BASS	±10dB（20Hz）
BASS ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE	±10dB（50kHz）
TREBLE ターンオーバー周波数	3.5kHz

■サブソニックフィルター 15Hz、12dB/oct

■オーディオミューティング −20dB

■SN比（IHF，Aネットワーク）

PHONO-1, 2（MM）	92dB以上
PHONO-1（MC）	78dB以上
AUX, TUNER, TAPE-1, 2	103dB以上
残留ノイズ（VOL. min）	−116dBm以下

■チャンネル間セパレーション

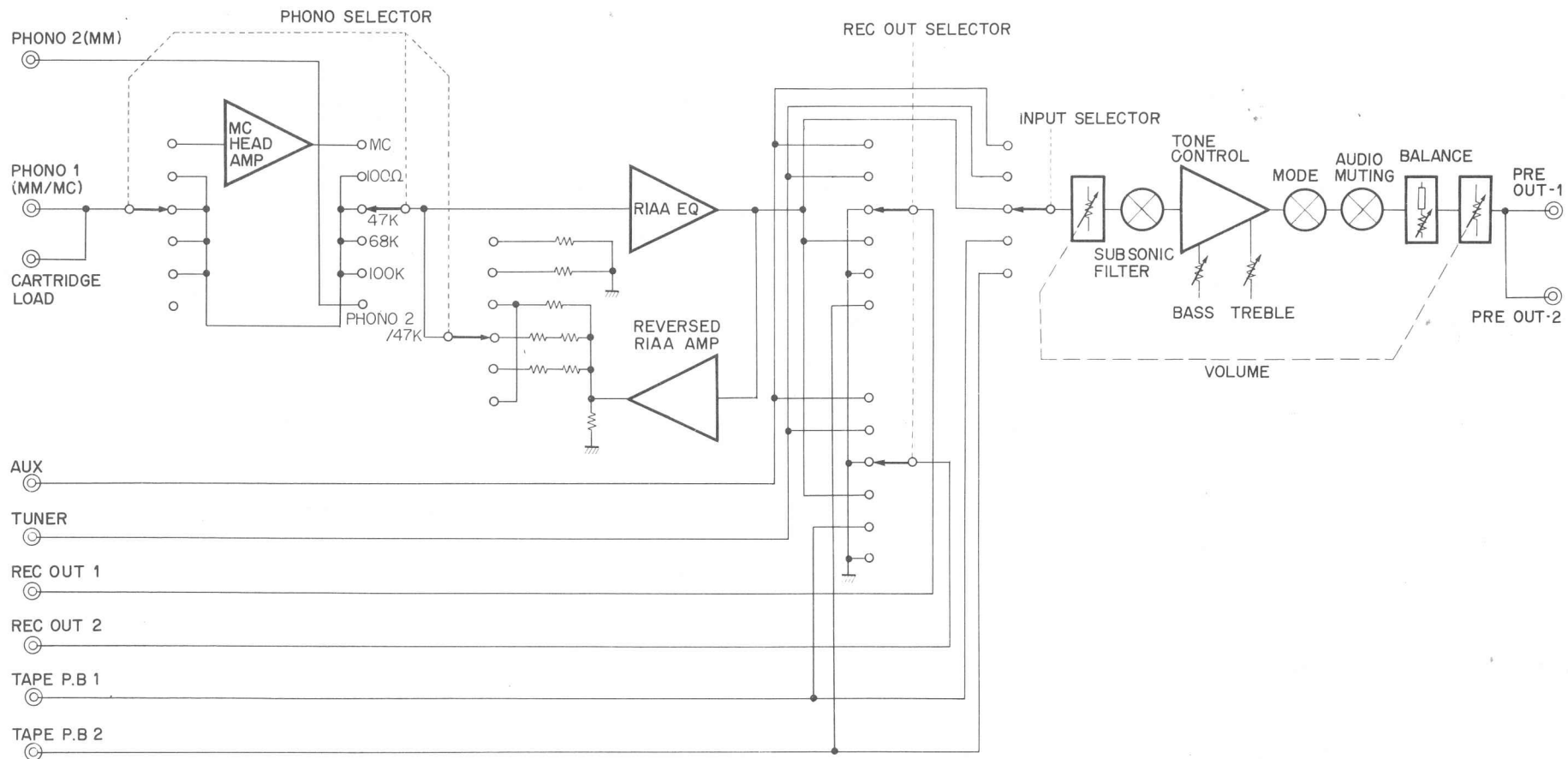
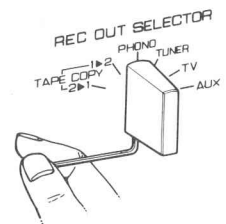
PHONO-1, 2（MM）→PRE OUT-1, 2（VOL.max, 1kHz, 0Ωショート）	90dB
PHONO-1（MC）→PRE OUT-1, 2（VOL.max, 1kHz, 0Ωショート）	60dB
AUX, TUNER, TAPE-1, 2→PRE OUT-1, 2（VOL.max, 1kHz, 1kΩショート）	90dB

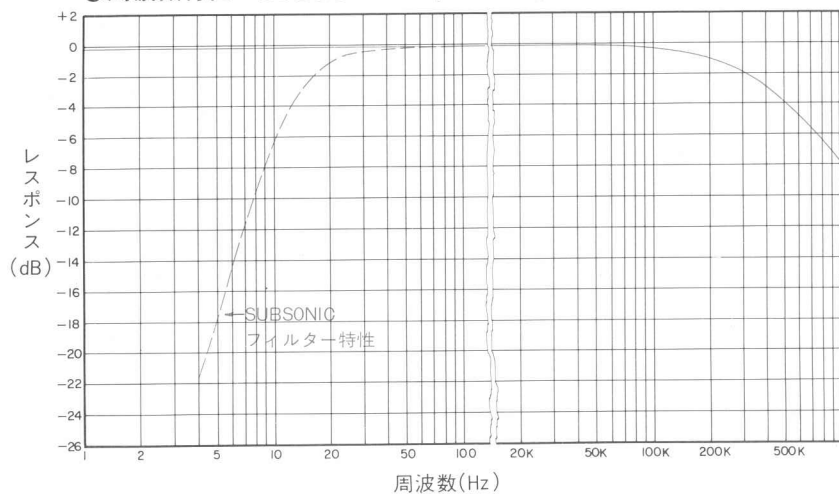
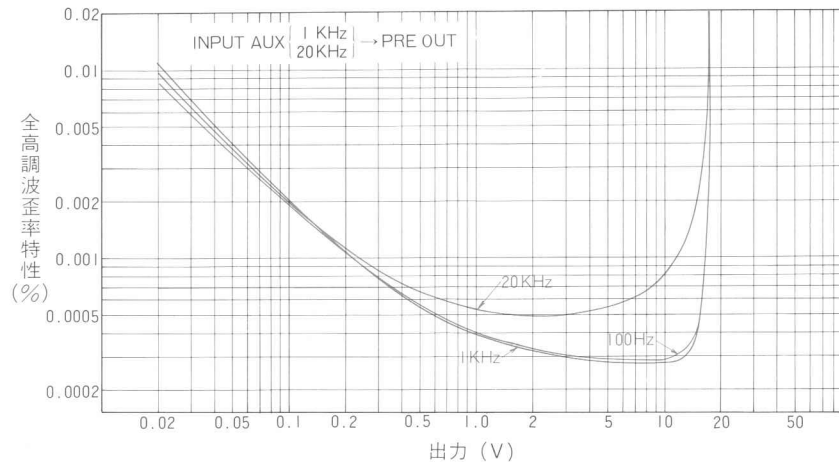
■その他

定格電源電圧	AC100V
定格電源周波数	50/60Hz
定格消費電力	36W
予備電源コンセント	SWITCHED：Total 400W
	UNSWITCHED：Total 400W
外形寸法（W×H×D）	435×71.5×356.3mm
重量	7.9kg
付属品	カートリッジロード 330（pF），470（pF）×各2
	ピンピンコード×1，六角レンチ 1.5φ×1

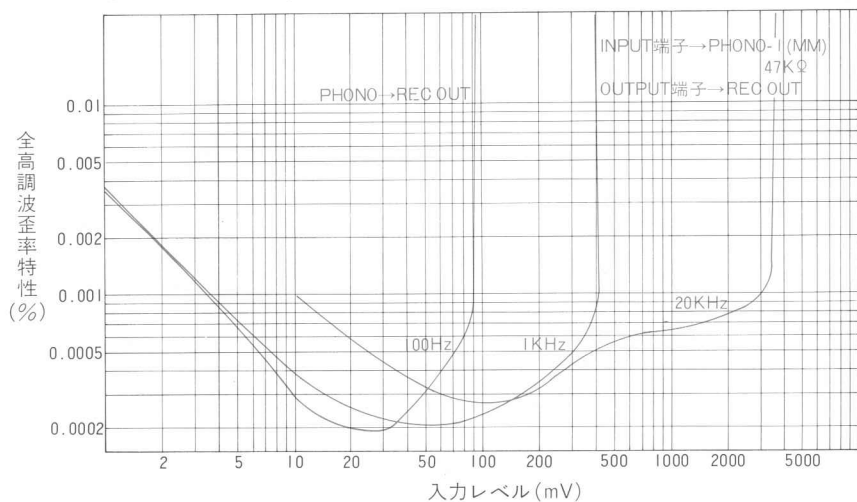
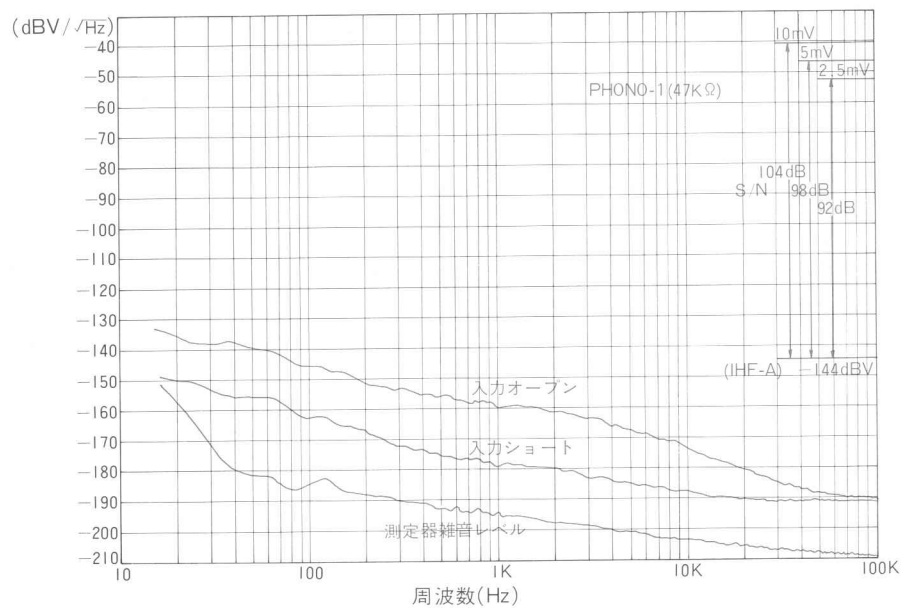
※規格および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

ブロックダイアグラム

PHONO SELECTOR
PHONO 2(MM)
MC HEAD AMP
MC
100Ω
47K
68K
100K
PHONO 2 /47K
PHONO 1 (MM/MC)
CARTRIDGE LOAD
RIAA EQ
REVERSED RIAA AMP
REC OUT SELECTOR
INPUT SELECTOR
TONE CONTROL
SUB SONIC FILTER
BASS
TREBLE
MODE
AUDIO MUTING
BALANCE
PRE OUT-1
PRE OUT-2
VOLUME
AUX
TUNER
REC OUT 1
REC OUT 2
TAPE P.B 1
TAPE P.B 2

●付属品について
六角レンチはBASS，TREBLE，REC OUT，INPUT，PHONO，スイッチ及びツマミの位置を調整したり，ゆるんだ時にお使いください。

11 特性図

●周波数特性　SUBSONIC フィルター特性

●出力対全高調波歪率特性

●PHONO入力対高調波歪率特性

●入力換算雑音特性

12

故障と思われるときは

症　　　状	原　　　因	処　　　置
電源スイッチをＯＮにしても電源が入らない	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください
	上記接続が確実にされ停電状態でなくてもＯＮしない	日本楽器各支店のステレオサービス係に相談してください
INPUTスイッチを切り換えても再生音が全く出ない	インプットセレクターが確実にセットされていない	正しい位置に確実にセットしてください
	VOLUMEツマミが絞られている	VOLUMEツマミを右に回してください
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
	出力コードの接続が不完全	出力コードの接続を確認してください
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない	コントロールアンプとパワーアンプ、またはパワーアンプとスピーカーの接続が不完全	接続、または動作を確認してください
	BALANCEツマミがＬかＲのどちらかにずれている	BALANCEツマミを正しく調整してください
VOLUMEをあげても音量が余り大きくならない	AUDIO MUTINGスイッチがＯＮになっている	AUDIO MUTINGスイッチをOFFにして再調整してください
レコード演奏のとき、〝ブーン〟というハム音が入る	ピンプラグの接続不良	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
	プレーヤーのアース線をGND端子に接続していない	アース線をリアパネルGND端子に接続してください
業務無線・アマチュア無線等の通信内容、放送が再生音に混入する	近所に送信所・業務無線局・アマチュア無線局等がある	日本楽器各支店のステレオサービス係に相談してください
		電波を発射している所に相談してください
レコード再生時、VOLUMEをあげると〝ワーン〟という音が出る	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして〝ハウリング〟をおこしている	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください
ＭＣカートリッジの音が小さい	ＭＣカートリッジの出力コードをPHONO-2端子に接続してある	PHONO-1端子に接続し、PHONOスイッチをＭＣポジションにしてください
なにか異常が認められた時		POWERスイッチをOFFにするか、本機の電源プラグをコンセントから抜いて、最寄りの販売店か弊社ステレオサービス係宛連絡下さい。

13 サービスについて

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器各支店ステレオサービス係へお願いいたします。

■本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。
■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。尚、保証期間中の修理などアフターサービスについてのご不明の場合は、お買上げ店か右記、お近くのサービスネットワーク（ステレオサービス係）宛お問い合わせください。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に〝故障ではないか〞とお思いになる点がございましたら、まず本文中〝故障と思われるときには…〞の項をお読みになってください。意外と故障ではない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。（ステレオの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

■日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。（右のステレオサービス係又は次頁の日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。）

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。（あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

■サービスのお約束

昼間ご不在がちのお客さまや留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようにお願いいたします。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

■サービスネットワーク(ステレオサービス係)

北海道事業所・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台事業所・〒983	仙台市原町南目薬師堂北2-1(宮城野センター) TEL (0222)95-6111
東京事業所・〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03)255-2241
浜松駐在・〒430	浜松市田町32(東京海上ビル5F) TEL (0534)54-4115
名古屋事業所・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸駐在・〒921	金沢市泉本町7-7(ヤマハ金沢センター) TEL (0762)43-6111
大阪事業所・〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06)445-6421
四国駐在・〒760	高松市西宝町2丁目6-44(高松センター) TEL (0878)33-2233
広島駐在・〒731-01	広島市祇園町西原2205-3 TEL (08287)4-3787
九州事業所・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151

日本楽器製造株式会社

本社・工場　〒430・浜松市中沢町10−1
TEL・0534(65)1111

東京支店　〒104・東京都中央区銀座7−9−18/パールビル内
TEL・03(572)3111

銀座店　〒104・東京都中央区銀座7−9−14
TEL・03(572)3131

横浜支店　〒231・横浜市中区本町6−61−1
TEL・045(212)3111

横浜店　〒220・横浜市西区南幸2−15−13
TEL・045(311)1201

千葉支店　〒280・千葉市千葉港2−1/千葉中央コミュニティセンター内
TEL・0472(47)6611

関東支店　〒370・高崎市歌川町8番地/高崎センター内
TEL・0273(27)3366

大阪支店　〒564・吹田市新芦屋下1−16
TEL・06(877)5151

心斎橋店　〒542・大阪市南区心斎橋筋2−39
TEL・06(211)8331

神戸支店　〒651・神戸市葺合区浜辺通り6丁目1の36
TEL・078(232)1111

神戸店　〒650・神戸市生田区元町通2−188
TEL・078(321)1191

四国支店　〒760・高松市西宝町2丁目6−44
TEL・0878(33)2233

四国店　〒760・高松市丸亀町8−7
TEL・0878(51)7777

名古屋支店　〒460・名古屋市中区錦1−18−28
TEL・052(201)5141

北陸支店　〒921・金沢市泉本町7−7
TEL・0762(43)6111

九州支店　〒812・福岡市博多区博多駅前2−11−4
TEL・092(472)2151

福岡店　〒810・福岡市中央区天神1−11/福岡ビル内
TEL・092(721)7621

小倉店　〒802・北九州市小倉区魚町1−1−1
TEL・093(531)4331

北海道支店　〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター
TEL・011(512)6111

仙台支店　〒983・仙台市原町南目薬師堂北2−1
TEL・0222(95)6111

仙台店　〒980・仙台市一番町2−6−5
TEL・0222(27)8511

広島支店　〒730・広島市紙屋町1−1−18
TEL・0822(48)4511

浜松支店　〒430・浜松市田町32
TEL・0534(54)4115

浜松店　〒430・浜松市鍛冶町122
TEL・0534(54)4111

海外支店　ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ
シンガポール・フィリピン

日本楽器製造株式会社

BWVW, 0, R0